

『奈文研論叢』第2号の刊行

2019年度に創刊された『奈文研論叢』の第2号(A4判 190頁)が、2021年3月22日に刊行されました。掲載論文・資料紹介は次の8本です。

〔論文〕

- 森川 実「土片塚から土片坪へ—土師器杯Cの法量変化からみた実用器種の変容について—」
- 庄田 慎矢・バンダリ スダルシャン・佐々木 由香・村上 夏希・劉 歆益「甘樫丘東麓遺跡出土コムギ炭化種子のユーラシア考古植物学的位置づけ」
- 山崎 健「上総国・下総国の貝類利用—地域における生業研究の一試論—」
- 神野 恵「平城京近郊窯の須恵器生産」
- TAMURA Tomomi, NAKAMURA Daisuke, and TRUONG Dac Chien “Chemical Analysis of Ancient Glass in Vietnam : A Comparative Study of Glass Beads Found in Vietnam and Japan”

〔資料紹介〕

- 村田 泰輔「藤原宮下層運河SD1901Aの層序」
- 橘 悠太「奈良文化財研究所所蔵『覚城院・萩原寺等関係中世聖教類』」
- 吉川 聡「興福寺二条家記録「文亀三年引付」の紹介」

本号でも、奈文研でおこなわれている研究が多岐にわたることを反映して、多様な分野・内容の論文、資料紹介を掲載することができました。また、田村朋美ほかによる英文論文を載せることができました。今後は、こうした外国語による論文も積極的に掲載し、奈文研での研究成果を国内ばかりでなく、国外に向けても発信していこうと考えています。平城宮跡資料館、六一書房(<https://www.book61.co.jp>)で発売中です。(企画調整部 加藤 真二)



刊行された『奈文研論叢』第2号

『探検!奈文研』の刊行

「探検!奈文研」は、奈文研が創立60周年を迎えた2012年に、奈文研の調査・研究活動をわかりやすく紹介するために読売新聞奈良版の連載企画としてスタートした読み物です。

2013年4月からは「小・中学生の読者が親子で楽しめるように」というコンセプトのもと、毎回一つのテーマを短い文章と一枚の写真またはイラストを添えて紹介する定期連載となりました。この連載が好評を博し、2018年9月までの5年半近くにわたり続きました。この度、全205話を収録し、一冊の書籍として刊行いたしました。

書籍化にあたっては連載当時の雰囲気を活かしつつ、一部の写真をリニューアルする等読者の皆さんが読みやすくなるような工夫をくわえています。

本書の編集作業を進める中で、与えられたテーマを約500字という限られた文字数の中で簡潔にわかりやすく、それでいて内容が正確に伝わるように書くことに頭を悩ませた連載当時の記憶を思い出しました。しかしすべての頁を通読してみると、奈文研の調査・研究の多彩さと継続的な成果の蓄積の豊かさをあらためて実感することができました。私たちの調査・研究の成果をいかに広く知っていただくか、その方法を模索することも大切で、苦労した思い出も良い修練になったと感じています。

本書は奈文研の様々な調査・研究の成果のエッセンスが詰まった一冊です。平城宮跡資料館、飛鳥資料館、六一書房(<https://www.book61.co.jp>)で発売しています。ぜひ皆さんも本書を手にとって、奈文研の調査・研究の奥深き世界を探検してみてください!

(都城発掘調査部 小田 裕樹・山本 祥隆・山崎 有生)



刊行された『探検!奈文研』